未来の子どもたちのために今、学校再編を考える

●問＝学校教育課　TEL 23-0424

全国で急速に進んでいる少子化。小林市も例外ではなく、小中学校の児童生徒数が年々減少しています。

令和6年度に3202人だった児童生徒数は令和12年度には2616人まで減る試算が出ており、その後も加速度的に減少することが推計されています。

各学校の児童生徒が減少することで「子どもたちが多様な考え方に触れる機会が少なくなる」、「入りたい部活動が無くなる」などの課題を抱える学校が増えていくことが予想されます。

その一方で、学校は地域コミュニティや防災拠点としての役割も担っており、現在、その重要性が広く再確認されています。

学校を取り巻く環境が急激に変化している中で、子どもたちにより良い教育環境を残していくために、学校の未来を地域全体で考える時期を迎えています。

市は、市内小中学校で課題となってきている、少子化の進行に伴う学校規模の適正化や学校施設の老朽化などの観点から、令和6年度に「小林市教育みらい検討委員会」を設置し、今後の市全体の学校の在り方について検討してきました。

令和7年2月には、同委員会が「小学校は現状を維持すること」、「中学校は再編し、適正規模を実現すること」といった内容の提言書を教育委員会に提出。

同年7月から12月にかけて、提言書について、全小学校区単位での保護者や地域住民との意見交換会などを実施しました。

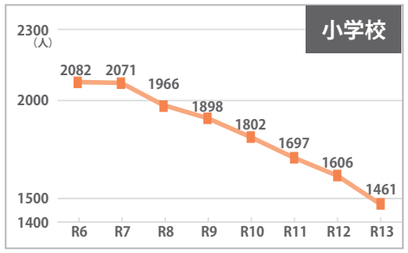
参加した保護者や地域住民から提言書への賛同意見が多く上がった一方で、中学校がなくなることによる地域の衰退を懸念する声も聞かれました。

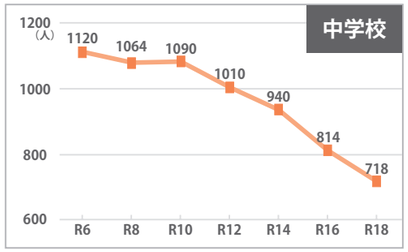
また、児童生徒を対象に行ったアンケートでは、「たくさんの人の中で学習・生活することの重要性を感じる」と考える児童生徒が多いことが分かりました。

自立
ともに学びともに育つ
小林教育の創造
貢献　感謝
～今の学びが未来を創る～

市内小中学校児童生徒数の推移

※R9以降の数値は、R7.4月時点の住民基本台帳による入学予定者数で算定





これまでの取り組み

令和6年8月
小林市教育みらい検討委員会を設置

令和7年2月
同検討委員会が「小林市立学校の在り方に関する提言書」を市教育委員会に提出

令和7年2月5日、市教育みらい検討委員会（河野康男会長）が提言書を提出

提出された提言書の概要①【小学校】

地域との結びつきが強く、地域コミュニティの核としての役割を担っていること、通学距離や時間が増えると子どもの心身の負担が増加することなどから、当面は、**可能な限り現状を維持**していくことが望ましい。

提出された提言書の概要②【中学校】

一定数の集団を必要とする学習活動を行う際の選択肢の確保が求められること、発達の段階に応じた人間関係の構築ができるような環境整備が必要であることなどから、地理的な条件や地域性を踏まえた**再編を行い、適正規模を実現**していくことが望ましい。

令和7年7月
～令和7年12月
意見交換会などで提言書に対する意見を集約

提言書の提出を受け、教育委員会は市内12の小学校区単位での保護者や地域住民との意見交換会、幼保園等の保護者や市PTA協議会との意見交換会、さらに市内小中学校全21校での児童生徒との意見交換やアンケートなどを実施しました。

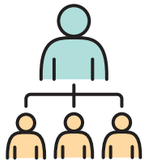
Topics

学校が小規模校化することのメリット・デメリット

メリット

一人ひとりの実態を詳しく把握することができ、習熟の程度に応じた個別指導ができます。

児童生徒一人ひとりの学校教育活動への参加意識や参加度が高くなり、存在感をもたせることができます。



上学年の児童生徒が下学年の児童生徒の世話をするようになり、リーダー性を育てやすい環境にあります。

デメリット

児童生徒数が少なくなることで、子どもたちの学び合いや社会性を育む機会に影響が出ると考えられます。

友人関係が固定化されがちになり、集団生活の中で多様な価値観に触れる機会が少なくなる懸念があります。

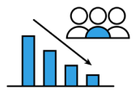
運動会や文化祭が制限されたり、生徒が希望する部活動を維持・運営したりすることが難しくなります。

数字で見る「学校施設の今」

小林市の学校施設は現在、大きな転換期を迎えています。その背景にあるのが「施設の老朽化」と「維持コスト」の課題です。

進む老朽化と少子化

現在、築30年以上の建物が全体の約**62**％を占めています。一方で、児童生徒数は昭和50年のピーク時から半分以下（約**44**％）にまで大きく減少しています。



増えていく学校施設の維持費用

全施設を今まで通り維持するには過去の平均的な維持予算の約**3**倍（年平均約**9.8**億円）が必要です。長寿命化改修を取り入れた場合でも、これまで以上に費用がかかります。

参考：小林市学校施設長寿命化計画より（令和３年３月策定）

小学校は現状を維持
中学校は市内４校に集約

市教育委員会は、子どもたちが望ましい教育環境の中で学び合えるよう、適正な学校規模や学習環境を整えることが重要であると捉え、意見交換会やアンケートの結果などを総合的に判断し、今後の学校の在り方に関する方針を決定しました。

今後の学校の在り方に関する方針

小学校は子どもたちが地域の人たちの見守りや愛情を受けて郷土愛や郷土への誇りを育む段階であることや、通学による心身の負担などを考慮し、当面の間は現状を維持します。

中学校は一定程度の学校規模を維持し、一定数の集団を必要とする学習活動を行うことや、発達の段階に応じた人間関係を構築できる教育環境が必要であることから、地理的な条件や地域性を踏まえ、市内にある9校を小林地区3校、須木地区1校、野尻地区1校の計4校に再編します。

令和13年4月から新しい学校のカタチへ

中学校の学習指導要領が新しくなる令和13年4月までに再編が完了していることが望ましいことや、統合母体校の校舎改築・改修完了見込みが令和12年度までであること、教育課程の調整や学校施設整備等の準備期間が必要であることなどから、再編後の中学校は令和13年4月にスタートします。

【市内中学校を４校に再編（統合）】

- **1 小林中学校** ← 細野中学校、西小林中学校、永久津中学校、東方中学校 → 小林中学校に統合
- **2 三松中学校** → 現状維持
- **3 須木中学校** → 現状維持
- **4 野尻中学校** ← 紙屋中学校 → 野尻中学校に統合

学校再編の基本方針

学校の再編にあたっては、「小中一貫教育と協働の学校づくりの継承」、「豊かな教育活動の実現」、「教育施設の整備・充実」、これら3つを基本方針として検討を進めていきます。

少人数指導の発展

学校再編後も、引き続き、教師が児童生徒一人ひとりと向き合うことのできる教育環境を整備するため、文部科学省が進めている少人数指導をさらに発展させ、小学校では30人学級編制、中学校では35人学級編制となるよう、検討を進めます。（国の基準は小学校が35人学級で中学校は40人学級）

新たな中学校の設置

生徒の多様な学びへの支援として、学びの多様化学校（不登校特例校）の開設に向けて準備を進めます。

※学び多様化学校とは、文部科学省の指定を受け、不登校児童生徒の実態に配慮した教育課程を編成し、実施する学校のこと

学校再編の基本方針

①小中一貫教育と協働の学校づくりの継承
小中学校の９年間を見通した一貫性と継続性のある教育と、学校・家庭・地域が協働で子どもたちを育む体制を、引き続き、小林教育の基盤とします。

②豊かな教育活動の実現
子どもたちの可能性を引き出し、互いに学び合い、高め合う学びを目指し、多様な学びが実現できる教育を目指します。

③教育施設の整備・充実
市財政の持続可能性に考慮した教育施設の整備を進めます。

今後のスケジュール

令和13年4月に再編後の中学校をスタートする場合のスケジュールです。

- **令和8年7～8月** 市内全中学校区で説明会を開催
- **令和8年9～11月** 小林市中学校再編計画（素案）の作成
- **令和9年1～2月** 小林市中学校再編計画（素案）パブリックコメント
- **令和9年3月** 小林市中学校再編計画の公表
- **令和9年4月～** 再編に向けた協議開始（部会等を設置）
- **令和13年4月** 再編後の中学校スタート

学校の未来について、みんなはどう考えている？

学校の在り方に関する方針を決めるにあたって、児童・保護者・地域住民など、たくさんの人たちと意見交換を行いました。

提言書の内容についてどう思いますか？（子どもたち）

－楽しみなこと－

- 先生が増えることで専門的な先生に指導してもらえる。
- いろいろな価値観、考え方の人と出会うことで、視野が広がり、成長できそう。
- 競い合えるライバルがいる方が、学習面もスポーツ面も向上しそう。

－不安なこと－

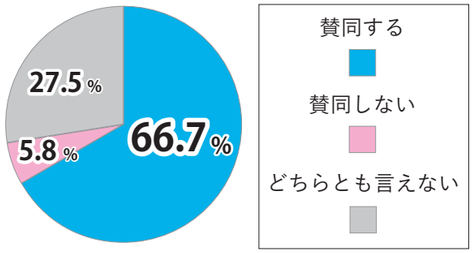
- 運動会などの行事で一人一人の出番が少なくなるの？
- 人数が多くなると自分の意見が言えなくなるかも。
- 小学校からグループができているから、他の学校と一緒になるのが不安。

保護者・地域の人たちの考え

- 児童生徒数の今後の推移をみると統合は致し方ない。再編にあたっては、地域の実情や歴史的背景も考慮して検討を進めてほしい。
- 中学校は大人への第一歩。コミュニティを広げたり、自分で選択することが必要な時期なので、より選択肢が増やせる環境が必要だと思う。
- 統合して友達が増えることを望んでいるが、地域が廃れる可能性も。学校がないと若者が不便さを感じ、そこに住まなくなるのでは？

提言書への賛同状況

令和７年７月から11月にかけて開催した「学校の在り方に関する意見交換会」で、アンケートを実施しました。



※アンケートは、意見交換会に参加した、保護者や地域住民など247人のうち、171人が回答したものです

Q1 再編しないと市内の中学校はどうなっていくの？

急速に子どもの数が減少しているため、学校の小規模化が進んでいきます。

再編を行わない場合、急激な速度で中学校の小規模化が進みます。

令和19年には市内9校のうち7校で学級数が3クラス（1学年1クラス）以下となり、クラス替えができなくなります。

生徒が自分と異なる多様な意見に触れたり、集団で学び合ったりする機会が減少するほか、学校への教員の配置数が減少し、教員が専門外の教科を教える場合があることなど、子どもたちの社会性を育むことへの影響だけでなく、教育の質にも影響を与える可能性があります。

▼市内中学校の生徒数の試算　※（）内は学級数

学級数が3以下の学校では、クラス替えができないことを意味しています。

中学校	R8	R13	R19
小林中	391（12）	383（12）	299（10）
細野中	113　(4)	116　(5)	76　(3)
西小林中	89　(3)	74　(3)	32　(3)
永久津中	29　(3)	22　(3)	11　(3)
東方中	46　(3)	48　(3)	20　(3)
三松中	227　(8)	220　(8)	147　(6)
須木中	22　(3)	11　(2)	3　(2)
野尻中	118　(4)	93　(4)	51　(3)
紙屋中	29　(3)	21　(3)	8　(2)

※R8の数は実数値。R13以降の数字は、R7.4月時点の住民基本台帳による入学予定者数から算定

Q2 学校が遠く、通学が大変になる？

遠距離通学の支援として、「スクールバス」を運行する方針です。

安心安全な通学方法を確保するため、スクールバスを運行します。運行は朝1便、帰り2便（学校終了時、部活動終了時）。バスの運営については、公共交通機関との連携や集合場所・集合時間などについて、地域の実情を踏まえ検討を進めます。

整備が難しくなってきているのが現状です。

実際に、クラスの人数が少ないことで話し合いが深まらなかったり、人間関係が固定化して自己表現がしづらい状況も見られます。

中学校においては、やりたい部活を諦める生徒も少なくありません。

また、教職員や保護者の減少によって一人ひとりの負担が増え、円滑な教育活動や学校運営にも影響を及ぼしています。

Q3 再編後の学校跡地の活用方法は？

地域交流やにぎわいづくりの拠点としての利活用が想定されます。

学校跡地の活用については、統合される中学校を小学校として活用することや、地域の拠点施設として活用するなど、多角的な視点をもって関係部局と連携し検討を進めます。

学校の未来を一緒に考えましょう

市内全中学校区で説明会を行います

今回決定した「今後の学校の在り方に関する方針」について、詳しい内容をお伝えする説明会を市内全ての中学校区で開催します。

方針を進めていく上で考える必要がある、安心な通学のためのスクールバスの運行ルールや子どもたちが熱中できる部活動の体制、地域で大切にしてきた伝統行事の継続、一人ひとりに合わせた不登校支援、学校跡地の活用方法など、意見を聞きたいテーマがたくさんあります。

これからの学校をより良い環境にするため、どういった手法があるのか。保護者や地域で暮らす人たちと知恵やアイデアを交えながら一緒に形にしていきたいと考えています。

未来を担う子どもたちにとって、そして小林市の未来にとって、より良い方法・選択は何か。

ぜひ会場へ足を運び、皆さんの思いを聞かせてください。

【説明会の開催日程】

校区名	開催日	場所
小林中	7/10（金）	小林中学校体育館
細野中	7/15（水）	細野小学校体育館
西小林中	7/17（金）	西小林中学校体育館
永久津中	7/22（水）	永久津中学校体育館
東方中	7/24（金）	東方中学校体育館
須木中	7/28（火）	須木総合ふるさとセンター
三松中	7/31（金）	三松中学校体育館
野尻中	8/4（火）	野尻中学校体育館
紙屋中	8/6（木）	紙屋中学校体育館

※全て19時に始まります

小林市教育委員会
大山（おおやま） 和彦（かずひこ） 教育長

より良い学びを子どもたちへ――共に考えませんか、学校の未来

求められる多様な学び 小規模化が抱える課題

AIをはじめとする急激な情報化や、先の見えない社会を生きる子どもたちには、自ら考え、多様な人と協働し、よりよい社会を築く力が求められています。

そのためには、多様な考えに触れ、友達と協力して課題を解決しながら社会性や協調性を育む環境が不可欠です。しかし、小規模化が進む学校では、その環境

地域の思いと葛藤 未来に向けた方針

今後、令和13年度には市内の中学生の数が千人を下回り、それ以降も急速な減少が見込まれています。

学校の再編には一定の準備期間を要するため、今が方向性を定める大切な時期であると判断しました。

方針の決定にあたっては、子どもたちや保護者、地域住民と意見交換を行い、検討を重ねてきました。

これまで本市の学校は、「地域と共にある学校」として地域からの見守りやたくさんの支援に支えられてきた歴史があります。

これは小林教育の伝統であり、強さでもあります。

地域の協力なしには、豊かな教育活動は成り立ちません。そして、学校は地域コミュニティの拠点であり、地域の灯火（ともしび）として大切な心のよりどころです。

だからこそ、統合する学校に深い愛着を持つ方々の気持ちを考えると、中学校統合の判断は真に難しく、苦しいものでした。

それでも、小林の宝であり未来の担い手でもある子どもたちに、より良い教育環境を整え、豊かな学びを保障することは教育委員会の大きな責務であると考え、「小学校は当面の間は現状維持」、「中学校は4校に再編する」という方針を決定しました。

学校と地域のこれから 一緒に考えませんか

7月から各中学校区で説明会を開催していきます。

再編に向けた準備や課題だけでなく、小学校や統合のない中学校の今後についても広く意見を伺いたいと考えています。

学校の在り方は、未来の地域づくりと密接に関わっています。将来、どのようなまちにしていくのか、小林市で暮らす全員で一緒に考えていきましょう。